

踏み跡 <My Mountains>

昭和43年8月18日

甲府着は0時42分。山梨交通のバス待合所へ行ってみると、すでに何人かの登山客がいるが、皆眠っていて今すぐに出発しようという人は見当たらない。こちらも同じように待合所で仮眠。

2時、山梨交通の人が来て「終列車が到着して混雑する前にマイクロバスを出すから乗らないか?」と言ってきた。渡りに船、周囲から人をかき集めて10人、4000円。

深夜の御勅使川を走り抜け夜叉神トンネルを抜けるとびっくり。何とトンネルの出口の野呂川は大雨。

広河原着は4時、時々雷を伴って夜の雨は冷たく、さびしく、怖い。休憩所で雨足を見ながら朝食と仮眠。

6時、バスが一杯の客を乗せて数台到着。それでも雨はやむ気配なし。もの見事に出鼻をくじかれ、この偉大なる計画はペアか? との思いが脳裏をかすめ始めた。ロッジに移りさらに天気待ち。

一見無慈悲そうに見えた雨もいくらか小降りになり、ところどころに青空がうかがえるようになったので、二度目の朝食をとり、出発することに決定。朝食はクロアッサン、チーズ、キュウリ、マヨネーズ、ジュース。

10時20分出発。下山して来るいくつものパーティとすれ違いながら、木の根の張りだした小道をさしたる登りもなく通過して、白根御池小屋に12時05分に到着。見上げてみると、2900mあたりよりも上の方はまだ雨雲に覆われており、下山してくるパーティは皆濡れている。ここには水が沢山あるので今日はここに泊まり、明日天気が良ければ一気に縦走してしまおうということになった。我々のプランを小屋の人に話すと、今までにこの小屋を朝出発して三山を縦走して奈良田に下り、しかもその日のうちに東京に帰った人はおそらくいないだろうと言う。この言葉で再度やる気が燃え始めてきた。

16時、隣の客のラジオを盗み聞きしながら天気図を作図。四国のはるか沖に停滞前線があるのが気にはなるが、今日よりもずっとよい天気が期待できそうだ。

16時15分夕食、明日の天気に祈りをこめて就寝。

昭和43年8月19日

起床3時、天気は快晴。金粉をまぶした屏風絵のような空。

4時10分出発。一日ぼんやりと時を過ごしたせいか、体がやや重く感じられる。しかしその一日のおかげでこの素晴らしい天気が手に入れられた。

朝一番の登りにしてはいささか辛い小太郎の肩へのひと登り。だが、荷が軽いということがこれほどに楽なことかと今更ながらの感心。小太郎の肩までは70分しかかからなかった。この登りでどうにかゴールへの自信が湧いてきた。のんびりと朝の景色を眺めながら10分の休憩。甲斐駒、仙丈、北岳頂上、そして鳳凰三山も黒く逞しく。

肩の小屋は横目で見送り、北岳頂上着6時15分。ここで第一回目の食事としてジュースとチョコレート。第一関門突破の安心感から顔が自然とほころぶ。幅広く平坦でしかも大きくどっしりとした間ノ岳、その左にわずかに顔を見せている農鳥岳の特徴ある頂。間ノ岳の右には、右下にコブを下げた塩見岳、どれも皆3000mを超す峰ばかり。足元の谷間は大樺沢とバットレス。間ノ岳の東側に小さな雲ができたと思うと、見る見るうちに膨れてきた。23分の休憩ののち出発。



大きく下り、その余勢で中白根を越えて間ノ岳への登りにかかる頃になると、股の間から見える北岳はピョンと尖って今までに見なれた北岳とはだいぶ違った景色。左に甲斐駒を従者として。(左写真)

間ノ岳着8時ちょうど、空は雲量3ぐらいだろうか。薄霞のような甲府盆地の雲の上に富士山が胸から上を見せて、大きい。北岳の右に雲からチラリチラリと姿を見せている長い山並みが八ヶ岳。食事と休息で45分間の大休止をとる。

鞍部の農鳥小屋への下りは、小さな岩屑と砂礫ばかりで歩きやすい。岩場を下る北岳とは大きな違いだ。ガイドブックでは1時間半と示されているこの下りを、富士と農鳥を眺めながら30分で下ってしまった。

踏み跡 <My Mountains>

小屋の屋根越しに見る富士山、なかなかいける。さあ、これで何とかゴールに向かえそうな気がしてきた。



間ノ岳より南アルプス核心部 (左：農鳥 中央：荒川赤石聖 右：塩見)

これから始まる農鳥への登りを済ませてしまえば、あとは下りだけだ。疲労は全くない。夏とは言えさほど暑くないせいだろうか。

農鳥岳は、3056mの西農鳥と3025.9mの東農鳥からなる双耳峰。これで最後の登りだなと思うとかえってこの登りがつらく苦しい。

農鳥岳（東農鳥）山頂に10時20分到着。当初予定では「ここを12時半に通過できればその日のうちに帰京可能」と読んでいたので、二時間ほど余裕があることになる。大井川源流をはさんで塩見岳が一段と近くなった。「このまま池の沢に下り雪投沢を登って・・・あと二日あればあの山に行ける」と、塩見を眺めながら独り言。水分を取りゆっくり体を休めて最後の下りに備えるべく20分間の休憩。

下り、奈良田が海拔828mだから東農鳥からは標高差2200mの落差の下りになる。

大門沢下降点で尾根に別れを告げて下りに入る。

しばらくは岩礫帯、そしてゴーロの沢、やがて林に入り大門沢小屋。急な岩礫帯の下りは疲れる。さすがに足の関節まで汗をかいているようだ。小屋の前でスケッチをしたり軽食を取ったりで45分の大休止。

谷間に入ると風がなく暑くなってくる。さっきまでの3000mの稜線の涼しさはどこへ行ってしまったのかと思うほどに。

大門沢、広河内（*注）と沢沿いに下り、小籠沢出合いを過ぎて大籠沢出合いあたりでようやく平坦に近い道になった。下山も長いと体ばかりでなく気持ちまでが疲れてくる。しかも今回のように時計を意識した山歩きとなると、いつしか腕時計の指針に心を奪われて足の運びも乱れがち。

早川の対岸の山が大きく見え始めてくると心ははやる。しかし予想外に長い最後のピリオド。最後までシャンとして歩こうと思うが、もう足の裏までが痛い。

奈良田発電所、終着点に到着！！ 14時30分。

やった、遂にやった、終わった、遂に終わった。色々な感慨が胸をよぎる。

「ごくろうさん！！」がっかりと握手。思ったよりも早く下ることができた。この長い下りを一番懸念していたが、大門沢小屋から二時間足らずで下ってしまった。

これが全力を注いで得た成功の甘き香りというやつか。下って来た谷間を振り返りただ無言。

次のバスは16時発なので、バス停のそばでのんびりと足を投げ出して日向ぼっこ。

近くの売店の人に聞かれた。「どこから下って来ました？」 「白根御池からです」

「へえ？何時に出ました？」 「4時頃です」 「速いですねえ・・・」

一日のうちにここまで下って来た人はいないだろうと言う。おそらく何人かはこういうモノ好きはいるのかもしれないが、最近の登山のはやりのスタイルからすれば確かに多くはいないだろう。

最終バスは身延駅に18時50分に到着。もう暗闇の訪れた駅前の食堂でカレーライスとラーメン。

甲府から終列車に乗ったが、いつしか熟睡してしまい立川で下車できず新宿まで行ってしまった。

やはり疲れた、ほんとに疲れた。だが何かが残った。何だろう？

キレット越えの実績も含めて、全力傾注しての満足感と成功の喜び、それに確実に自信が得られた。

踏 み 跡 <My Mountains>

◆コースタイムサマリー

区 間	ガイドブック記載のコースタイム	我々の行動実績
広河原～白根御池	2時間30分	1時間45分
白根御池～北岳頂上	3時間30分	1時間55分
北岳頂上～間ノ岳	2時間	1時間22分
間ノ岳～農鳥小屋	1時間30分	30分
農鳥小屋～東農鳥	1時間30分	50分
東農鳥～大門沢下降点	40分	15分
大門沢下降点～大門沢小屋	3時間30分	1時間
大門沢小屋～奈良田	4時間	1時間45分
合 計	19時間20分	10時間22分

以上

*注：河内（こうち）（かわち）

溪谷を指す呼び名で、特に長野県・山梨県に多い。

上高地（上河内）、広河内、魚無河内、黒河内など。